

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	ウインディ広瀬川
2	指定管理者	社会福祉法人 緑仙会
3	指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで（5年間）
4	施設の利用状況	《利用者数》 ・平成30年度 4,271人（前年度比 81.29%） ・平成29年度 5,254人（前年度比 96.87%） ・平成28年度 5,424人（前年度比 93.94%）
		《事業》 日常生活を営むことに支障のある精神障害者が入所し、自活生活に必要な技術を習得するために指導や援助を行う。
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 76,593千円（76,764千円） ・ その他市が負担した費用 5,052千円（1,563千円） （ ）は前年度決算額
		《収入》 ・ 使用料収入 47,141千円（57,744千円） 【再掲：利用者負担額 9千円（1千円）】 ・ その他収入 2,500千円（0千円）
6	利用者の声	《実施状況》 ・平成31年2月、指定管理者の協力のもと障害者支援課で利用者アンケートを実施し、11人/11人中（100.0%）の回答を得た。施設の利用に関し、満足または大変満足が58.2%であり、普通が36.4%、不満が5.5%という回答であった。

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野		所見	評価
I	総則	施設の設置目的に基づいた管理運営が適切になされている。 自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練のサービス提供に意欲的に取り組んでいる。 また、退所した利用者には一定期間中に訪問支援を行うなど、アフターフォローも実施している。	42/42
II	施設の運営管理体制	必要数の職員が配置され、利用者間のトラブルの和解や、服薬管理など、施設利用者への細やかな対応を可能としており、個人情報の管理に配慮したうえで職員間の情報共有も図られている。また、経理を担当する職員を配置し、適切な経理書類が作成されている。 事故や災害に備えた研修を行っているほか、三居沢地区防災会議に参加し、近隣施設や関係機関と災害時の協力体制を構築するなど、緊急時の体制がとられている。	25/25
III	施設・設備の維持管理	建物・設備の保全や備品管理については、委託仕様書に沿った適切な管理・取り扱いがなされているものの、建物、備品ともに年数が経過しているため、各所に不具合が生じている。 施設内の清掃は定期的に行われており、利用者が衛生的かつ快適に利用できる状態であった。 グリーン購入に関しては、前年度と同様、予算範囲内で積極的に取り組んでいる。	24/24
IV	サービスの質の向上	利用者が少しでも早く地域に移行できるよう、関係機関と協力した退院促進支援や宿泊訓練に取り組んでいる。また、施設職員の資質向上や意識啓発のため、外部研修会に職員を参加させるなどの取り組みも行っている。 ホームページでの情報提供や施設のパフレット作成など、適切な利用情報の提供に努め、見学体験利用も積極的に受け入れている。	28/28
V	施設固有の基準	生活訓練プログラムの月間予定表を作成して、計画的に実施した。生活技術の習得、地域活動への参加と交流、健康増進、生活圏の拡大等の目的のもとに、調理実習、清掃活動、高齢者施設でのボランティア等を実施し、利用者の生活技術の向上に努めた。 必要に応じて、利用者家族及び相談支援事業所や医療機関等の各種関係機関との適切な連絡体制の確保も図っている。	12/12

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
加点評価	—

四 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人 緑仙会）による自己評価》
<p>ウインディ広瀬川は、指定管理者管理業務協定書及び仕様書に基づく適正かつ円滑な業務管理に努めるとともに、当法人の「第三次中期経営計画(H29～H33)」に則して策定した「平成30年度ウインディ広瀬川事業計画」に基づき事業を実施した。</p> <p>具体的には、利用者の希望する地域生活への移行に向け、1人ひとりの生活課題や目標に応じた訓練を実施した。利用者増に向けた広報などに取り組んだが、精神症状の悪化により入院治療が必要になった利用者や、体験利用から利用に繋がるまでの期間が掛かる方、体験利用しても利用に繋がらなかった方が複数名おり、昨年度に比べ延べ利用者数が減少した。</p> <p>①精神科病院の長期入院患者の退院促進 精神障害者の退院促進を目的に、精神科病院を訪問し、事業の紹介、空室状況の情報提供などを行なった。入院中からの利用者に対しては、体験利用を段階的に行なうことにより、生活訓練に対する意欲を高め、安心して利用できるよう支援を行なった。入院中の利用者9名に対して、19回の体験利用、延べ144日の体験利用を実施した。病状が不安定なため利用に繋がらなかった方や、長期入院により、繰り返し体験利用が必要な方等がいたため、利用に繋がった利用者は3名となっている。</p> <p>②利用者の特性に合わせた個別支援の実施 生活リズムの確立や、病状の安定のための通院や服薬、金銭管理等地域で生活を送るために必要なスキルを身に付けてもらうため、個別支援を実施した。</p> <p>③地域生活への移行支援 本人やご家族の希望する地域生活を送るため、グループホームに5名、アパートに1名、自宅に1名が退所し、地域生活移行後にアフターケアとして訪問等の支援を行なった。</p> <p>④その他 短期入所の事業として、本人や家族の休息等を目的に短期入所(ショートステイ)を実施、延べ575名の利用があった。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成30年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われていた。</p> <p>特に、長期入院や自宅で引きこもりの生活をしている障害者の利用を促進するため、利用手続きの段階から医療機関、区保健福祉センター、障害者相談支援事業所等の関係機関と連携するなど、本市が重点的に取り組んでいる地域生活移行へ向けた努力が認められる。</p> <p>全体としては、利用実績が前年度を下回っているものの、利用者の募集をかけているところ、研修の実施による職員の人材育成の取組みを積極的に行うことなどにより、自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練事業所として良好なサービスの提供に繋がっているため、総合的に高く評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課